

土曜集中講座 「ナノテクノロジー社会受容特論A」

担当:阿多 誠文、伊藤 正、小川 久仁

(1) 開講日

・第1回目:平成22年6月5日(土) (午前/午後共に2時間の講義と1時間の討論)

1. 10:00~13:00 「ナノテクノロジーの社会受容 その現状と政策」

阿多誠文氏(産総研)

科学と技術の新しい関係がどのように議論され、科学技術政策に反映されてきたのか、現在、新技術に対する社会受容の課題がどのように展開しているのかを俯瞰する。現在進んでいる経済産業省政策委員会での議論も討議に反映させる。

13:00~14:00 休憩

2. 14:00~17:00 「ナノ材料の健康影響と環境影響」

小林隆弘氏 ((社)国際環境研究協会)

ナノ材料のヒトおよび環境へのリスク研究の現状と、今後の展開をわかり易く説明し、各自の分野での課題をケーススタディにした議論も進める。

・第2回目:平成22年6月19日(土) (午前/午後共に2時間の講義と1時間の討論)

1. 10:00~13:00 「ナノテクノロジーの実用化におけるISOおよび

OECDの役割」

大塚研一氏 (JFEテクノリサーチ(株))

ISOやOECDといった国際的な枠組みが、ナノテクノロジーの実用化においてどのような役割を担おうとしているのか、日本はどのように対応してきたのか、今後の課題は何か、こういった話を始めて聞く学生にもわかり易く解説する。

13:00~14:00 休憩

2. 14:00~17:00 「社会受容におけるコミュニケーション問題—その理論と実践」

平川秀幸氏 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)

新しい科学・技術の社会受容で重要な専門家、政策担当者、一般市民とのコミュニケーションのあり方について、とくに英国での議論や実践の変遷を振り返る。併せて日本での取り組みも紹介する。さらに第四期科学技術計画(2011-2015)の枠組みを視野に入れつつ、今後の課題についても展望する。

(2) 開講場所

- ・ 大阪大学中之島センター7階セミナー室
- ・ 大阪大学東京オフィス
- ・ 四日市商工会議所
- ・ 豊中キャンパス
- ・ 吹田キャンパス
- ・ その他

(3) 受講費用

大学院生、科目等履修生は無料、その他は、資料代として2000円